

城下町の風景

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 平成19年11月7日(水)～平成20年1月14日(月)
[休館日] 19年12月4日(火)・5日(水)・年末年始

福井は江戸時代に全国有数の城下町として繁栄しましたが、明治4年(1871)の廃藩置県によって福井藩がなくなると、その象徴であった福井城は取り壊され、周囲の堀も次第に埋め立てられていきました。

また、福井は明治以降に近代都市へと変貌を遂げましたが、特に昭和20年(1945)の福井空襲と同23年の福井地震によって、ほとんどの古い建物が失われてしまいました。

しかし、幸いなことに城や城下町の各所を描いた貴重な資料が残されていたため、現在私たちはその様子を知ることができます。今回の展示では松平家その他に伝来した絵画資料などにより城下町福井の風景を紹介します。

主な展示品の解説

1. 福井城下眺望図(写)

福井市春嶽公記念文庫

寛政年間(1789～1801)頃の福井城下の様子を、^{あたご}愛宕山(足羽山)付近の上空から描いた眺望図である。福井藩士で城下絵図の製作に携わった田辺利忠が作成した原図を、大正8年(1919)に松平家が模写したものである。

季節は春で足羽河原の桃林ではいっせいに開花を迎えている。福井城を取り囲む武家屋敷、北陸道に沿って西側から北側に広がる町屋や寺社が一望され、画面右端には白山も遠望される。



2. 福井城郭各御門

其他見取絵

越葵文庫

福井城や武家屋敷を中心に福井城下の旧景を25の場面で描いた図絵である。福井城の建物や城門、周辺の武家屋敷の風景が多いが、九十九橋なども描かれている。なお、この図絵は旧福井藩士大越銀次郎が松平家へ寄付したものと推定され、同じ場面を描いた「福井城旧景」はその図を浄写したものとされる。



3. 馬威し図屏風 (菱川師福筆) 当館蔵

幕末の福井に生まれた菱川師福翁が、
富商片山外吉の依頼により、昭和12年
(1937)に93歳で描いた馬威しの屏風で
ある。正月14日に福井城桜門から出馬し、
本町通りを九十九橋北詰方面へ向かう乗
馬した武士たちと、それを威す庶民のすが
たが生き活きと描かれている。通りには二
階建ての店々が軒を連ね、店内と矢来やらいの
内には見物人が集っている。



[右隻]



[左隻]

《 展示品目録 》

No	資料(作品)名	員数	所蔵
1	福井城下眺望図(写)	1巻	福井市春嶽公記念文庫
2	福井城郭各御門其他見取絵	1巻	越葵文庫 当館保管
3	福井城旧景	1帖	当館蔵
4	山口家御成の図	1幅	当館蔵
5	九十九橋図	1額	当館蔵
6	海浜巡視水陸路程図(部分)	1枚	福井市春嶽公記念文庫
7	馬威し図屏風(菱川師福筆)	6曲1双	当館蔵
8	馬威し図(菱川師福筆)	2幅	荒井證次氏蔵

※ 展示の順番は資料(作品)番号と一致しない場合があります。

【見どころ講座】

「城下町の風景」の見どころを紹介します。

11/24(土)

午後2時～3時 ※当日先着順・無料
場所:当館2階講堂 担当:印牧信明(当館学芸員)

定員
50名

《 次回の展示 》

松平家史料展示室

テーマ展 「御泉水屋敷の変遷」

平成20年 1/18(金)～3/17(月)

展示解説シート No.30 平成19年11月7日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1 TEL.(0776)21-0489 FAX.(0776)21-1489 担当:印牧信明 印刷:河和田屋印刷株式会社